

令和3年度 第1回吹田市環境審議会

議事概要

1. 会議概要

日時	令和3年(2021年)8月10日(火)14:00~16:00	
場所	全員協議会室	
出席者	委員	江川直樹委員、上甫木昭春委員、近藤明委員、芝田育也委員、塚田朋子委員、三輪信哉委員、山中俊夫委員、五十川有香委員、川本均委員、坂口妙子委員、白石透委員、益田洋平委員、松尾翔太委員、鳥越喜雄委員、大和田壽郎委員、水田和真委員、小川勉委員、西田有紀委員、三田康子委員、柚山明彦委員
	事務局	辰谷副市長、中嶋環境部長、道澤環境部次長兼環境政策室長(環境政策室)楠本参事、小山参事、白澤主幹、倉本主査、辻本主査 圓谷主任、八木主任、大澤係員、北係員 (環境保全指導課)石川指導長、西川課長、服部主査 (事業課)信川課長 (資源循環エネルギーセンター)白田所長 (破碎選別工場)福山工場長 (総務交通室)石本参事
議事	1 「吹田市第3次環境基本計画」の進行管理について 2 「吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画」について 3 環境目標値の変更について 4 「自然環境調査及び生物多様性保全施策検討支援業務」について 5 「地球温暖化対策の自治体間連携に関する基本協定」について	
資料	1 令和2年度吹田市第3次環境基本計画の進捗状況に係る環境審議会評価(案) 2 令和2年度吹田市第3次環境基本計画の進捗状況に係る環境審議会評価(案)の概要 3 令和2年度吹田市第3次環境基本計画に係る環境施策の実績集約・自己評価【内部評価】 4 吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画の策定スケジュール 5 吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画素案の概要 6 環境目標値の変更について	

	<p>7 自然環境調査及び生物多様性保全施策検討支援業務について</p> <p>8 令和2年度吹田市第3次環境基本計画の進捗状況に係る環境審議会評価(案)に対する意見一覧</p> <p>9 「地球温暖化対策の自治体間連携に関する基本協定」について</p> <p>【参考資料】</p> <p>1 令和2年度吹田市第3次環境基本計画 指標実績グラフ</p> <p>2 吹田市第3次環境基本計画 令和2年度環境施策の実績一覧(令和3年3月31日現在)</p>
--	--

2 議事

議題1 「吹田市第3次環境基本計画」の進行管理について

事務局より説明

質疑応答

A 委員

資料8のNo1において、「記述するには一定期間の推移を見た上で判断」とあるが、一定期間とは具体的にどれぐらいの期間か。

事務局

おおよそ3～4年程度を想定している。

A 委員

エネルギー関係の指標について、算定に2年を要するのはなぜか。もう少し早く算定できないのか。

事務局

算定に必要なデータのうち、例えば運輸部門の鉄道に関する統計などは2年遅れで集計されるため、現状でこれより早く算定するのは難しい。

A 委員

資料3の8ページにおいて、市域の年間温室効果ガス排出量が下がっているが、何が寄与していると考えられるか。

事務局

算定には関西電力の排出係数を用いているが、原子力発電所の再稼働や再エネ割合の拡大などが、排出係数の減少に繋がったと考えられる。

会長

各指標については、関係室課でその増減の要因を分析し、今後の施策展開に繋げて欲しい。

B 委員

はぐくむの各指標が減少した理由について、資料8のNo3では「対面でのイベント等の実施が困難になったため」と記載されているが、審議会評価案ではその記述がないので、追記してはどうか。

また、前日も議論になったと思うが、本計画では「低炭素」となっているが、国の動向に合わせて「脱炭素」と読み変えることは難しいか。

中嶋環境部長

総合計画や環境基本計画は議決されている文書であり、今すぐに文言を変更することは難しい。しかし、昨年策定した、吹田市第2次地球温暖化対策新実行計画の中でも実質ゼロを掲げている中で、行政としては「脱炭素」の気持ちで様々な施策を進めている。

文言については、来年度から総合計画の見直しが開始されるので、そのタイミングで庁内でも議論し、正案になれば、本審議会でもご議論いただきたい。

B 委員

資料8の3ページおよび資料1の2ページにおける「まもる」について、「生物多様性に対する関心を高めていく必要がある」とあるが、関心を高めるためにはどのようにすればいいかが重要である。また、意識を高めることが目的ではなく、本来の目的は生物多様性をまもることにあるので、その部分について、審議会評価案の本文にてもう少し言及したほうが良いのではないか。

事務局

生物多様性を「まもる」ことが最終的なゴールであり、大きな課題であることは事務局としても認識している。資料8にも記載しているとおり、現在進めている自然環境調査の結果を踏まえて、具体的にどのような取組ができるのかを検討する予定であるため、現段階では具体的な取組については記載しにくい。

会長

生物多様性への関心を高めるためには、高めるための場が必要だと思う。実際にまもるという点と関心を高める場を整備する点の両輪で進めるべきである。

A 委員

学校でそのような環境学習はないのか。

会長

学校では環境教育の中で一部実施されているようだが、系統立てられたものではない。都市部では学びの場がないので、学校の校庭にビオトープを作るなどして、学びの場を確保している。

C 委員

先ほど環境基本計画の見直しの話があったが、例えば資料3の8ページに記載されているエネルギーの目標について、計画策定時は2030年の削減比は26%だったが、今は基準が変わっている。そういったもの見直しも今後されていくのか。

事務局

確かに、計画策定時は26%削減とされている時代だったが、本市はより踏み込んだ目標としており、具体的には基準年と比較して50%削減を目標としている。よって、現状の国の情勢とも合致しているので、現時点で更なる目標値の見直しは検討していない。

C 委員

生物多様性の認知度について、下がっていることが理解しにくい。一旦認知されたものが下がっている原因をどのように考えているか。

事務局

認知度が下がった要因について、把握することは難しいが、ひとつ考えられるものとして、10年ほど前に名古屋で生物多様性の条約に関する会議が開かれたことにより、一度高まった認知度が年数の経過とともに減少してきたと考えられる。

C 委員

市として生物多様性の認知度を高めるためにいろいろな施策を実行しているにも関わらず、認知度が下がっていることが理解しにくい。アンケートの母集団が変わっているなどの原因はあるか。

中嶋環境部長

委員のおっしゃるとおり、アンケートを同じ人に取り続けると、一度認知されたものが忘れられることはないが、母集団が毎回違うことにより誤差が発生している可能性はある。

しかし、市としては生物多様性に関する認知度が低いので、高めていく必要があるというスタンスはベースにあるので、コロナが収束すればイベントを再開し啓発するなど、会長やB委員のおっしゃられた場の提供を確保していきたいと考えている。

副会長

資料3の5ページで「はぐくむ」の評価におけるエコスクール活動簿の評価が21点以上の学校数が大きく減少しているが、どのような現状か。

事務局

担当部局に確認したところ、資料3の5ページに記載しているとおり、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、エコスクール活動簿に記載されているような取組が例年どおりに実施できなかったため減少しているのが現状である。

副会長

エコスクール活動簿は子供達が環境活動を実践するために大事なものと認識しているので、担当室課はもちろんだが、環境政策室でも十分に内容と現状を把握し、進めて欲しい。

中嶋環境部長

副会長がおっしゃるとおり、基本計画策定時にエコスクール活動簿の中身については、この審議会の中で議論したかと思う。環境部としても、新型コロナウイルス感染症により取組が進んでいない現状を踏まえつつ、それ以外に活動が進まない原因があれば教育委員会と話をして改善していきたい。

副会長

エネルギーの指標に関してですが、吹田市で実施している再生可能エネルギー比率の高い電力のグループ購入事業に参加された市民の数などは将来的に指標とすることは難しいか。

中嶋環境部長

すぐに指標を変更することは難しいが、審議会委員の皆様の様々な観点からの御意見を踏まえて、今後計画をブラッシュアップしたいと考えているので、この場に限らず、意見があればお伝えいただきたい。

D 委員

ごみの排出量に関する指標について、資料3の6ページでは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、家庭系ごみは増加したが、休業等により事業系ごみが減少したことから、「市民1人当たりのごみ排出量」については減少している。と記載されているが、資料1では講座等によるごみの減量・再資源化の啓発進められた結果、市民1人当たりのごみ排出量については、順調に減少しています。と記載されている。どちらの効果により指標が減少したと考えているか。

事務局

講座等の啓発による効果も一定あるとは考えられるが、昨年度に関しては、新型コロナウイルスの影響が大きいと認識している。

D 委員

新型コロナウイルスの影響により減少しているのであれば「順調に減少している」という表現はふさわしくない。

中嶋環境部長

「順調に減少している」という表現はふさわしいと認識しているので、会長と相談の上、文言の修正をさせていただきたい。

会長

様々な意見をいただいたので、事務局と調整し、必要に応じて修正を行いたいと思う。

議事2 「吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画」について

議事3 環境目標値の変更について

議事4 「自然環境調査及び生物多様性保全施策検討支援業務」について

議事5 「地球温暖化対策の自治体間連携に関する基本協定」について

事務局より報告

B 委員

資料4について、フードドライブの取組について、審議会の評価案では触れていない理由はあるのか。

事務局

特に理由はない。全体のバランスも見ながら追記可能かを検討する。

会長

先ほど話題にもなった、再生可能エネルギー比率の高い電力の共同購入事業の件もそうだが、市民が実際に参加して努力していただいている部分が表に出た方がよいと思う。

中嶋環境部長

一般廃棄物処理基本計画の策定において、廃棄物減量等推進審議会でも御意見があったが、計画を策定して終わりではなく、実際に協力していただいている市民や事業者の取り組みが重要である。会長のおっしゃったとおり、協力していただいている取組をできるだけ拾い上げて記載したいとは考えているので、別途相談させていただきたい。

副会長

NATS の連携の話があったが、自然環境調査において他市との連携はあったのか。また、能勢町と進めている地域循環共生圏など、他市との連携について説明して欲しい。

中嶋環境部長

環境問題は広域で取り組むことでより大きな効果があると考えている。吹田市としては NATS の連携だけにこだわっているわけではない。例えば自然環境調査で淀川水系を調査すると、NATS では難しい。事象に合わせて個別で取り組むべきもの、広域で取り組むべきものを判断して進めていきたい。

また、広域で連携して進めると効果は高いが、文化が違う他市と足並みを揃えて1つのことに取り組むことは難しいチャレンジだと感じているので、引き続き皆様からもアドバイスをいただきたい。

副会長

たとえば自然環境調査においてキツネの目撃がされているが、キツネの生存圏は吹田市の中だけだとは考えにくいので、広域で調査できればよいのではないかと。

事務局

キツネの行動範囲については、まだ不明な点もあるため、近隣他市での目撃情報もあるのかという点も踏まえ今後検討していきたい。

会長

自然環境調査について、最初に文献調査を行うとしているが、ここで広域連携すると見えてくるものも違うと思うので、検討していただきたい。生物多様性について、1つの市だけで取り組むことは無理であると個人的には感じている。

B 委員

資料9の別紙2について NATS の取り組みの具体的な現状を教えてください。

事務局

まず、「再生可能エネルギー導入促進」については今後どのような取組が可能かを検討していく。次に「プラスチックごみ削減・熱中症対策」における給水スポットの導入については4市とも導入完了しているが、今後は4市を移動される市民がどこにいても給水スポットにたどり着けるような周知を検討している。傘シェアリングについては4市で導入している市はなく、今後民間の導入実績等も踏まえながら検討していきたい。バイオマスプラスチ

ック製ごみ袋を活用した啓発については、すでに導入している豊中市の知見も踏まえながら導入を検討したい。最後に「広域連携を活用した環境啓発」については、各市ですでに実施している環境教育について、ひとつの市でその市民だけを対象にするのではなく、より広域的なものにしていきたい。短期目線で着手可能なものもあるが、長期的に取り組むべき課題もある。

B 委員

4市の連携は職員の連携ではなく、これらの取組は市民が行動するものかと思うので、市民への周知、啓発を積極的に行って欲しい。

D 委員

NATSの連携について、基本協定書の第2条に「資源や機能等の共有及び活用」とあるが、ここで想定される資源とは何か。

事務局

特に具体的なものを想定して条文に書いたわけではない。各自治体が持っている情報、知識、マンパワーなど様々なものを出し惜しみなく共有したいと考えている。